

2021年9月8日

東京高齢期運動連絡会  
会長 杉山 文一

## いまこそ、いのちを大切にす新しい政治への転換を 菅首相総裁選不出馬にあたって

国民の声と運動に追い詰められた菅首相は衆議院議員任期切れを前に迷走を続けた上、政権を投げ出しました。深刻な感染状況の中、さらにコロナ感染を爆発させ、被害を深刻化させるG o T oキャンペーンや東京五輪やパラリンピックの強行はじめ数々の無策、愚行を重ね、国民に大きな負担をかけてきた上に政権投げ出した菅首相の無責任に対し、国内外からきびしい声が寄せられています。

コロナウイルス感染が爆発的に広がり、医療関係者の懸命の努力にもかかわらず入院できずに急変して自宅で死亡する例が急増しています。医療・公衆衛生への支出を削減し続け、感染症等の国が責任を持つべき「政策医療」を削り、公立・公的病院や保健所を減らし続けてきた新自由主義に基づく政策が医療体制を脆弱化させたことが最大の原因です。またPCR検査等による戦略的大規模検査を怠り、営業自粛への補償を渋り、病院経営への支援と医療体制の強化の手立てとらず、人の移動の抑制に有効な対策を打ち出すこともしない政権の無策が国と国民に大きな負担をかけました。

菅首相は政治的思惑から五輪開催を強行し、感染爆発に拍車をかけました。その最中、菅政権は75歳以上患者負担2倍化法を強行し、ベッド数削減推進法、公立・公的病院の統廃合推進の路線を進めようとしています。

いま国民のいのちと暮らしは危機に直面しています。国民がはっきり意思表示できる衆議院選挙は目の前です。75歳以上2割化を中止に追い込み、むしろ社会保障充実の契機にする絶好の機会です。

第34回日本高齢者大会 in 長野も目前です。高齢者のみなさん、大会を再出発の起点とし、私たちの命とくらし、子どもたち、孫たちの未来のために、暮らしと命をまもる政治の実現をめざし、立ち上がりましょう。